日本は、どのように世界平和に貢献できるか？

岩倉宣子

20 世紀が終わろうとしている今、通信テクノロジーなど様々な技術の高度化の中で、多様な背景をもつ世界中の人々が地球を一つの国として実感できる時代、「幾世代もの間、多くの人々が切望してきた世界平和は今やまさに手の届くところにあるばかりでなく、必然のもの」[1]となりました。これは、「地球の発展における次の段階」[2]です。

そこで、日本はその世界平和確立に向けてどのような貢献ができるかを考えてみましょう。

この課題について、日本の占める地理的な位置、世界で唯一ユニークな戦争災害を体験した国民といった面から検証してみたいと思います。

まず、地理的位置からして日本は西洋と東洋の橋渡しができるでしょう。また、バハイ信教の守護者は、「オーストラリアから太平洋の北方の島々にまで伸びる精神軸」[3])があり、この軸の南極と北極には、非常な精神的力を付与されていると説明しています。この精神軸の北極に位置するのが日本です。日本はこの精神的力をもって、太平洋の全地域に住む人々を精神的に覚醒させ、中国大陸の精神的覚醒に貢献すると期待されているのです。

次の点は、日本は世界で唯一、原子爆弾を経験した国であるという現実です。世界は今終わろうとしているこの「光の世紀」に、悲惨な大戦を二度も経験しています。さらに、内戦や局地戦争、テロ行為などを数えあげればそれだけで数時間を要するでしょう。そのどれもが大きな被害と悲しみを人類全体にもたらしています。私たち日本人は、広島、長崎に投下された原爆の物理的，精神的影響を目撃した唯一の国民として、核兵器などの廃絶はもとより、本当の意味での平和の重要性について人々の認識を高めるために貢献する立場にあると思います。実際に、こんな身近な例があります。ちょっと前になりますが、インドが核実験を行ったというショッキングなニュースが入った頃、私は会議でマレーシアにいました。マレーシアの一人の若者が、自分は今からインドの田舎の方に出かけるのだが、広島の原爆写真などがあったら送って欲しい、インドの片田舎に住む人たちは核兵器の恐ろしさを知る手段を与えられていないから、それらの写真を見せることは啓蒙になる、と私に言ってきたのです。

この点について、私たち日本人自体の認識も低いのではないでしょうか。事実、戦後 50 年以上もたった今では、この大戦の荒波をくぐった人たちも多くはすでに他界

---

[1] 万国正義院、「世界平和の確証」、p.1：*The Great Peace … is now at long last within the reach of the nations, …World peace is not only possible but inevitable.*

[2] *同上：* *It is the next stage in the evolution of this planet.*

[3] 「燎原の火：日本」、p.91: *… a spiritual axis, extending from the Antipodes to the northern islands of the Pacific Ocean—an axis whose northern and southern poles will act as powerful magnets, endowed with exceptional spiritual potency,…*

されており、そのような経験は風化しつつあります。そして、物質主義に押しつぶされた結果生み出された価値観、つまり儲かること、楽なことのみを追求してやまない多くの現代人にとって、我々の先人たちがどのような体験をしたかを振り返ることは時間の無駄と受けとめられているくらいです。しかし、人類はこのような貴重な経験を学習として生かすべきであり、日本人にはそれを助ける役割が与えられているのではないでしょうか。

それに、若い世代の日本人がどれだけ物質文明に犯されていようとも、世界全体を見渡すならばこの面でも日本人は注目に値する資質を人類に示すことができるといえます。

バハイ信教の創始者バハオラの息子で、彼の教えの完全なる模範者であるアブドル・バハは、日本人とその運命的な役割について幾つかの興味あるコメントをしておられます。

アブドル･バハは一度ならず何度か、「これらの能力ある人々（日本人）の性格に隠されている精神的潜在力」[4]について「日本人はすでにこの特性に恵まれている」[5]と明言し、「日本は物質文明においてすばらしい進歩を成し遂げたが､精神的に発展を遂げて、日本の中に『王国の力』が現れるようになれば完全なものとなるであろう」[6]と明言されています｡そして日本に対し、「物質的な進歩発展よりももっと急激な驚くべき精神的進歩が期待」[7]されているのです。

また、「日本は世界がやがて目撃するであろう人類と国々の精神的目覚めに先駆者としての役割を演じるであろう」[8]、「日本の国民は聡明で、素早い同化力を備えている」[9]とも述べておられます。

さて、アブドル･バハは、人類の歴史を振り返ると、戦争、闘争、流血などあらゆる種類の動乱は、何らかの形の偏見が原因となっている、もし私たちが古びた盲目的模倣と独断的な意見の相違から解放され、真実を探求すれば不和は解消され、敵対心は消えるであろうと説明しておられます。人類は世界が抱えている問題を共に協議することによって解決することを学ばなければなりません。

そこで、ここで協議について検討してみようではありませんか。

この課題に関してインスピレーションを得るため、偉大なる教育者バハオラはどのように教えているかを彼の書に探ってみましょう。

全てのことにおいて共に協議せよ。なぜなら、協議は道を示す導きの光であ

---

[4] 「燎原の火：日本」、p.76: *Its people (Japanese) are endowed with great capacity.*
[5] 同上、p.23:… *the spiritual potentialities hidden in the nature of these capable people*
[6] 同上、p.31: *Japan has made wonderful progress in material civilization, but she will become perfect when she will also make spiritual development, and the Power of the Kingdom become manifest in her.*
[7] 同上、p.76： *… a spiritual transformation even more sudden and starting than its material progress and advancement, ….*
[8] 同上、p.75： *Japan … will take the lead in the spiritual reawakening of the peoples and nations that the world shall soon witness.*
[9] 同上、p.31：*…the inhabitants of Japan are intelligent, sagacious, and have the power of rapid assimilation.*

り、理解を授けるものだからである。[10]

.... 協議なしには幸福にも、安寧にも達することはできない。[11]

.... 協議が友らの間で十分に実施されること。それはつねに、認識と目覚めを導くものであり、善と幸福の源泉であった。将来もそうあり続けるであろうから。[12]

では、人類の平静と幸福を生み出すうえでこれほどまでに有効な手段の一つである協議が、これまでなされなかったというのでしょうか？

これについて、特にこの 10 数年間に様々な努力が世界規模でなされたということは誰もが認めるでしょう。しかし、人々は果たして協議に不可欠の姿勢を養っているのか、協議の前提条件を備えていたかを見てみると、必ずしもイエスとは言えないのではないでしょうか。期待された効果が上がっていないのは、おそらくそのためでしょう。

アブドル･バハは協議の前提条件についてこう述べておられます。

共に協議するものらに最も必要な条件は、動機の純粋さ、精神の輝き、.... 謙虚、忍耐、.... これらの美徳を身に付けること... [13]

その後、最高の献身、礼儀、威厳、思いやりと中庸をもって自分の考えを述べなければなりません。[14]

真の協議とは、愛情ある態度と雰囲気の中で行われる精神的話し合いなのです。協議をする人は、良い結果が生じるように友情の精神で互いに愛し合わなければなりません。愛と友情は（協議の）基礎です。[15]

もう二十年も前のことになりますが、ラバニ夫人が日本を訪問されました。彼女は近代的な大都会から、アフリカやアマゾンの奥地まで、世界の様々な地を旅し、その土地の人々と直に交わるという大変豊かな経験の持ち主です。その講演の中で彼女は、国民性ということについて触れ、日本人はとても多くの美徳をすでに備えている人たちであると語られました。もちろん、何人かの人を見てそれをあたかも全体であるか

---

[10] 「協議」、p.1 (#1)：*Take ye counsel together in all matters, inasmuch as consultation is the lamp of guidance which lead the way, and is the bestowal of understanding.*

[11] 同上、p.1 (#2)：No welfare and no well-being can be attained except through consultation.

[12] 同上、p.2 (#5)：*...consultation may be fully carried out among the friends, inasmuch as it is and will always be a cause of awareness and of awakening and a source of good and well-being.*

[13] 「協議」、p.4 (#9)： *The prime requisites for them that take counsel together are purity of motive, radiance of spirit, ..., humility and lowliness ..., patience and long-suffering ... Should they be graciously aided to acquire these attributes, ...*

[14] 同上、p.6 (#10)： *They must then proceed with the utmost devotion, courtesy, dignity, care and moderation to express their views.*

[15] 同上、p.15 (#22)：*... True consultation is spiritual conference in the attitude and atmosphere of love. Members must love each other in the spirit of fellowship in order that good results may be forthcoming. Love and fellowship are the foundation.*

のように見ることは危険ですが、お国柄というものは確かにあるようです。彼女によると、ある国の人たちは現在これらの美徳を数個しか備えておらず、今後様々な形での教育を通してそれらを修得していくよう期待される状態であるが、日本人はすでに20以上の美徳を備えているということです。

それらのいくつかは、和を尊ぶ気持ち、思いやり、礼儀、謙虚、温和、協調、友情、忍耐、正義感、知識、中庸、沈着、従順、慈悲、足るを知る心、慎重さ、などです。彼女のリストにはもっとたくさん載っていましたが、日本人である私が聞いていて何だか気恥ずかしくなったように記憶しています。私たちの父母や祖父母の時代には、確かに、日本人はこれら多くの美徳を備えており、日常生活は思いやりと、協調性の上に成り立っていたように思います。私はよく覚えているのですが、子供の頃、朝起きると、特に何が食べたいなど言わなくてもきちんと朝食がお膳に並んでいて、それが不思議に私の食べたかったものと合致しているのです。もっとも、その頃はそんなにいろいろ食べ物を選択できるような状況ではなかったのですが。それにしても、その範囲の中でそれなりに満足いくものでした。「以心伝心」という言葉がありますが、これは一つの技術であり、直接的に発言されないことはないに等しいとする文化の中では育たないものだと思います。しかし、このセンスは思いやりと大いにかかわっております。他の国民に比して、日本人の気質の中には思いやりとつながるこのセンスが生きています。

協議における条件として挙げられている、礼儀、思いやりと中庸といった美徳を日本人は備えているのです。日本人がこれらの資質を国際社会の様々な活動の中に反映させることが、すなわち世界平和への貢献になるのだということを私たちははっきりと認識しなければなりません。

引用文献

万国正義院、「世界平和の確証」。日本バハイ全国精神行政会翻訳監修。東京：バハイ出版局、1989年.

「協議」. 日本バハイ全精会邦訳・編纂監修. 東京，バハイ出版局，1988年.

「燎原の火：日本」。日本バハイ全国精神行政会翻訳監修、大阪、バハイ出版局、1983年.